



2021年4月  
七尾市立図書館  
の会発行  
発行責任者  
芹田玲子

## 定期総会日程きままる

### 畠山浄氏が七尾古写真の講演

七尾市立図書館友の会では、令和3年度定期総会を五月二二日に開きます。

この総会ではコロナ収束を見据えて、会員の皆さんが楽しみながら、なおかつ達成感の得られる活動を、どう築いていくかが焦点となります。どうか皆さんの率直なご意見をお願いします。

また記念講演は七尾古写真アーカイブをインターネットで運営しておられる常福寺住職・畠山浄氏が古写真に見る七尾を語られます。

なお、会場のパトリア立体駐車場は出入りゲートが一階のみとなり混雑が予想されます。満車時は市役所前駐車場をご利用下さい。

## 令和3年度定期総会

5月22日(土曜日)午後2時  
パトリア4階フォーラム大ホール

\*当日は消毒液、赤外体温計、座席間隔を広げるなどの感染対策を行います。事情の許される方は、どうぞご出席ください。

### 畠山さんの

### 七尾古写真アーカイブ

明治・大正・昭和の郷土に関する写真、絵葉書、古地図のうち著作権の期間終了したものをインターネットで公開するもので、真宗大谷派常福寺が社会事業として行っています。かつての七尾の姿をかえりみて、これからの七尾を思い描いてほしいとはホームページを運営する畠山さんの言葉です。

七尾古写真アーカイブは

<http://www.nanaoarchive.com/>で見ることができます。



税務署橋の雪景色（左の土蔵が後に図書館となる）

## 県内各地から「いいね」

### 50周年記念「あゆみ」発刊に賞賛の声

昨秋発刊の結成50周年記念「あゆみ」を

県内図書館含む二十数

ヶ所に送ったところ

「よくやった、いいね」

の声を頂きました。

とくにユニークな表

紙が好評で、植物好き

にとっては「葉の名前

を言い当てる楽しみも

あった」との伝聞も入

ってきております。

北陸中日新聞に載りました。

二〇二〇年十一月十八日朝刊



## 新年度を前に

会長 芹田玲子

会員の皆様におかれましては、健康やかな毎日をお過ごしのことと申します。友の会では今年度もコロナ対策をしながら行事を進めるつもりです。例えば今総会の講演をヒントに七尾古写真巡りなどができたらどうか、皆様のご希望をお寄せ下さい。重ねがさねですが、今年度もぜひ会員継続をして下さるようお願いいたします。また、本好きなお友達にも友の会を紹介して頂けると嬉しいです。

## 本の虫

三月十八日の  
夜七時四〇分頃  
七尾上空でも国  
際宇宙ステーション・日本実験

棟「きぼう」が見えました。西の空に電球色の点がスッと現れ、高空を飛ぶ旅客機ほどの速さで三日月をかすめ、北極星の下を通りすぎるとまたスッと消え去りました。さて、コロナ禍で手詰まりの中、会員の皆さんの交流の場になればと、このミニコミ紙案が浮かびました。会からの案内はもちろん、地元作家の紹介や文学にまつわる逸話に、読書会が選ぶ本の紹介、図書館と縁のあるボランティア団体の近況など、いろんな記事で目を楽しませたい。なかでも一番載せたいのが皆さんからの投稿です。ペンネームでも良いので気軽にお願いします。ただひとつ注文があります。「希望」を込めたものであること。老いさき絶望しかないとおっしゃらず、ちょっとだけ「きぼう」を原稿用紙に託してみませんか。待っています。

杉森久英文庫室に親しむ会

この読書会は、ずっと締め切ったままの杉森久英記念文庫室を見るに見かねて月に一度空気の入れ換えをしながら、読書会をしようと始まりました。それぞれ読んだ本をA4一枚にまとめてそれぞれ発表します。

因みに、今月三月一八日(第六十二回目)の読書会では次のようなテキストがとりあげられました。発表した順から

① 『馮友蘭自伝 上下』  
中国現代哲学者の回想  
吾妻重二訳 平凡社刊

② 『死ぬのによい日だ09年 版ベストエッセイ集』  
日本エッセイストクラブ  
文藝春秋刊

③ 『幕末の天皇』 続  
藤田寛 著 講談社刊

④ 『仁齋日札・たはれ草・不盡言・無可有郷』  
新日本古典文学大系99  
岩波書店刊

この脈絡のなさに、皆さん仰天されるかと思いますが、知らない世界の話を聞く愉しみがあり、とても刺激的で二時間があっという間に過ぎます。

ラインで知り、今回初めて参加したKさんは、「アットホームに迎えていただけるとても居心地がよく、さらに楽しい時間を過ごせました。来月はもう一人参加させていただければ幸いです。引き続き宜しくお願い致します。」と感想を言ってくれました。そしてこの読書会は「ハマると思います。一気に4冊くらい本を読んだ気になります( > < )」とのことでした。  
もちろん、発表しない人も歓迎です。ギャラリーが多い程、発表に熱が入りますし、発表中もフリートークです。からわからない事や共感する事を言葉にします。日頃のストレス解消請け合いです。(Oちゃん)

市立図書館の新着棚より

「手作りを楽しむ蜜ろう入門」

安藤竜二 (著)

農山漁村文化協会 (出版)



自然な色を活かしたキャンドルやハンドクリーム作りなど、この1冊で蜜ろうのすべてが分かる本です。取材時この本は貸し出し中でした。図書館によると新刊の面白いものほど書棚に長居できないそうです。と言うことはこの本も！  
(編集部たじ)

春のクッキング 草餅

3月から4月、柔らかいよもぎが、芽をだします。排気ガスやイヌが散歩をしない野に出てよもぎを摘みます。摘むたびにさっとゆがいて、刻み冷凍しておきます。

- ① あんこを作る (小豆 300g さとう 300g 塩小さじ1) スプーンで35個ほど小分けする。
- ② 餅をつく (もち米1升 冷凍よもぎ 500g 塩小さじ1)
- ③ ぬれぶきんでお餅を広げ中にあんこをくるみ、もち粉で形を整える。

春の恵み  
いただきま〜す。



七尾のここが好き

名前でも呼んでくれます

沖たむ子

七尾に嫁いでやがて五十年。退職してからでも、ずいぶんととなります。良かったなあと思うことは、町内の男の人や女の人も、私のことを「たむ子さん」と名前でも呼んでくれることです。私の夫はけっこう歳もいつているのですが、誰も「おじいちゃん」なんていいません。「○○さん」と名前です。お互い○○さんと名前でも呼び合う仲良しです。(時々、屋号プラス○○さんと呼ぶのも、ほのぼのします) 同じ名字が多いからかも知れませんが、ホント、いいなあと思います。

七尾のここが好き

寺野時雄

春 土筆や路の臺が芽を出し、椿、梅、桜が咲き、竹の子が顔を出し牡丹や躑躅が咲く山の寺  
夏 初夏には遊歩道に紫陽花が咲き蝸牛が遊び、盛夏は杉林や竹林が日差しを遮り涼しい風の吹く山の寺  
秋 桜に始まり、銀杏、紅葉や灯台躑躅が色づく山の寺  
冬 寺々の山門や本堂に降り積もった雪のモノクロトーン  
の美しさ、大晦日の除夜の鐘の



山の寺に春が来て

ハーモニー、そして消えかけた雪の間に咲く寒椿や寒咲き菖蒲。  
私はその様な山の寺が好き。そして、古からの歴史を誇り古い史跡や言い伝えの残る七尾が好き。